

施設実習における学びの現状と課題

——学生のアンケートを通して——

手塚 崇子*

The Present Condition of In-Facility Training Through a Student Questionnaire

Takako TEZUKA

要 旨

施設実習における学びの現状と課題を調べるために、学生にアンケート調査をし施設実習の学びを17の分野にわけ、分析した。施設の役割・機能、施設の1日の流れ、援助技術、職員の役割・職務等、実際に実習生が観察し、関われる部分についての理解度が高い結果となった。しかし、地域との連携、保護者支援・家庭支援、保育士の職業倫理等は理解度が低い結果となった。学びが低い分野については事前学習のさらなる具体化が必要であり、施設での利用者（子ども）との関わりの中でイメージできる環境作りをするための事例研究を行うことが求められる。

キーワード：施設実習，保育者養成，保育士の役割機能，施設の役割機能，利用者（子ども）理解

1. はじめに

施設実習は、保育士養成課程の保育実習1（1）の中に位置づけられており、本学では、2回目の実習に該当する。施設実習において学生は、保育士の専門性と保育士の役割・機能、利用者理解について実習を通して学ぶことを目的とされている。

そこで、平成27年度行った施設実習において、学生の施設実習での学びをアンケートを通して分析し、今後の課題を明らかにすることを目的とする。

*講師 保育行財政，幼稚園・保育所経営

手塚 崇子

2. 目的

施設実習での学びについて学生に実習課題の理解についてアンケート調査を行う。そして保育士の役割を17に分類し、その内容について実習生の学びの理解度を分析し課題を明らかにする。

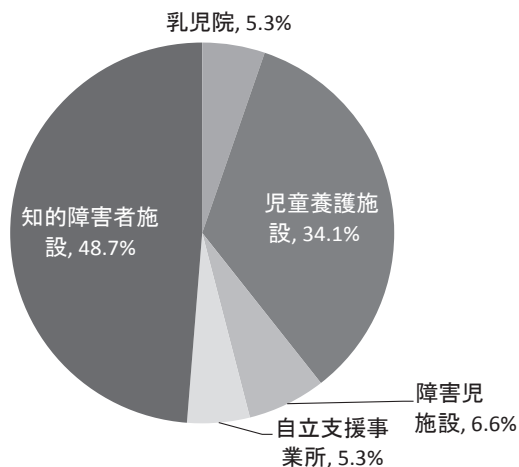
3. 方法

(1) 収集

本学において、平成27年6月～8月にかけて12日間の施設実習を行い、その後学生にアンケートを行った。調査への協力は個人名、実習施設名は、特定されないこと等を説明した上、76名の協力を得て行ったものである。

(2) 学生の実習先の分類

学生の実習先は、乳児院、児童養護施設、障害児施設、自立支援施設、知的障害者施設となっており、その分布は、障害者施設37名(48.7%)、児童養護施設26名(34.1%)、障害児施設5名(6.6%)、乳児院4名(5.3%)、自立支援事業所4名(5.3%)であった。



(出所) アンケートより筆者作成。

図表1

3. 実習で学んだことについての内容

実習で学んだことについては、次の17の視点でアンケート調査を行った。①施設の役割・機能について、②施設の一日の流れ、③利用者（子ども）の理解、④安全や健康への配慮、⑤施設的环境づくり、⑥段階に応じた成長・発達、⑦保育士の援助技術、⑧職員の役割・職務、⑨保育士の専門性、⑩多職種（職員間）との連携、⑪地域との連携、⑫利用者（子ども）との関わり、⑬職員の利用者（子ども）への支援のあり方、⑭保護者支援・家庭支援、⑮記録（実習日誌）の書き方、⑯保育士の職業倫理、⑰利用者（子ども）の最善の利益とした。

詳細に分析するために、17の視点について、全体と施設別にわけて分析することとする。

(1) 全体としての結果（図表2参照）

前述した17の視点について、「よくわかった」「まあまあよくわかった」「ふつう」の3つの合計は、全ての視点で7割以上であった。

① 施設役割・機能について

施設の役割・機能については、「よくわかった」が48.7%、「まあまあわかった」が42.1%、「普通」が7.9%、「あまりわからなかった」が1.3%であった。施設の機能・役割の理解については、「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると90.8%であり、9割を占める高い結果となった。

② 施設の一日の流れ

施設の一日の流れについては、「よくわかった」が82.9%、「まあまあわかった」が15.8%、「あまりわからなかった」が1.3%であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると98.37%であり、ほとんどの学生が実習を経験し、施設の一日の流れを理解することが出来たと述べている。

③ 利用者（子ども）の理解について

利用者（子ども）の理解については、「よくわかった」が17.1%、「まあまあわかった」が51.3%、「普通」が29.0%、「あまりわからなかった」が2.6%であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると68.4%であり、約7割の学生が利用者（子ども）の理解について、理解したといえる。

④ 安全や健康の配慮について

安全や健康の配慮については、「よくわかった」が44.7%、「まあまあわかった」が36.8%、「普通」が17.2%、「あまりわからなかった」が1.3%であった。「まあまあわかった」と「よく

わかった」を含めると 81.5%であり、約 8 の学生が利用者の安全や健康の配慮について、職員の技術や配慮により理解したといえる。

⑤ 施設的环境づくりについて

施設的环境づくりについては、「よくわかった」が 25.0%、「まあまあわかった」が 51.3%、「普通」が 19.8%、「あまりわからなかった」が 2.6%、「わからなかった」が 1.3%であった。「あまりわからなかった」と「わからなかった」と答えた学生は、児童養護施設で実習を行った学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると 76.3%であり、約 8 の学生が施設的环境づくりについて、理解できたといえる。

⑥ 段階に応じた成長・発達について

段階に応じた成長・発達については、「よくわかった」が 14.5%、「まあまあわかった」が 40.8%、「普通」が 28.9%、「あまりわからなかった」が 15.8%であった。「あまりわからなかった」と「わからなかった」と答えた学生は、児童養護施設・障害児施設・障害者施設で実習を行った学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると 55.3%であり、約 6 割の学生しか段階に応じた成長・発達について、理解できなかった比較的低い結果であった。子どもの成長・発達、そして障害者の特性や個別の事例に関して、さらなる事前学習の必要性があるといえる。

⑦ 保育士の援助技術について

保育士の援助技術については、「よくわかった」が 19.7%、「まあまあわかった」が 63.2%、「普通」が 17.1%であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると 82.9%であり、約 8 の学生が保育士の援助技術について、理解できたといえる。保育士の援助をそばで見学し、利用者（子ども）にとって適切な援助を観察し、学習していることがうかがえる。

⑧ 職員の役割・職務について

職員の役割・職務については、「よくわかった」が 38.2%、「まあまあわかった」が 44.7%、「普通」が 14.5%であった。「あまりわからなかった」は、2.6%であった。「あまりわからなかった」と回答したのは、児童養護施設と知的障害者施設で実習を行った学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると 82.9%であり、約 8 割の学生が職員の役割・職務について、理解できたといえる。

⑨ 保育士の専門性

保育士の専門性については、「よくわかった」が 10.5%、「まあまあわかった」が 36.8%、「普通」が 36.9%であった。「あまりわからなかった」は、15.8%、「わからなかった」が 1.3%であり、「あまりわからなかった」と回答したのは、乳児院以外の全ての実習先で実習を行った

学生にみられた。「わからなかった」は自立支援所で実習を行った学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると47.39%であり、約5割の学生しか、保育の専門性について、理解できなかったといえる。

⑩ 多職種（職員間）との連携

多職種（職員間）との連携については、「よくわかった」が38.2%、「まあまあわかった」が40.8%、「普通」が18.4%であった。「あまりわからなかった」は、2.6%であった。「あまりわからなかった」と回答したのは、児童養護施設で実習を行った学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると79.0%であり、約8割の学生が多職種の連携について、理解したといえる。

⑪ 地域との連携

地域との連については、「よくわかった」が15.8%、「まあまあわかった」が30.3%、「普通」が35.5%であった。「あまりわからなかった」は、18.4%であり、「あまりわからなかった」と回答したのは、乳児院以外の施設で実習を行った学生にみられた。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると46.1%であり、約半数以下の学生しか地域との連携については、理解できなかったといえる。

⑫ 利用者（子ども）との関わり

利用者（子ども）との関わりについては、「よくわかった」が26.3%、「まあまあわかった」が60.5%、「普通」が13.2%であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると86.8%であり、約9割の学生が利用者（子ども）とのかかわりについて、理解できたといえる。

⑬ 職員の利用者（子ども）への支援のあり方

職員の利用者（子ども）への支援のあり方については、「よくわかった」が25.0%、「まあまあわかった」が55.3%、「普通」が17.1%「あまりわからなかった」が2.6%であった。「あまりわからなかった」と答えた学生は、児童養護施設と知的障害者施設で実習を行った学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると80.3%であり、約8割の学生が利用者（子ども）との関わりについて、理解できたといえる。

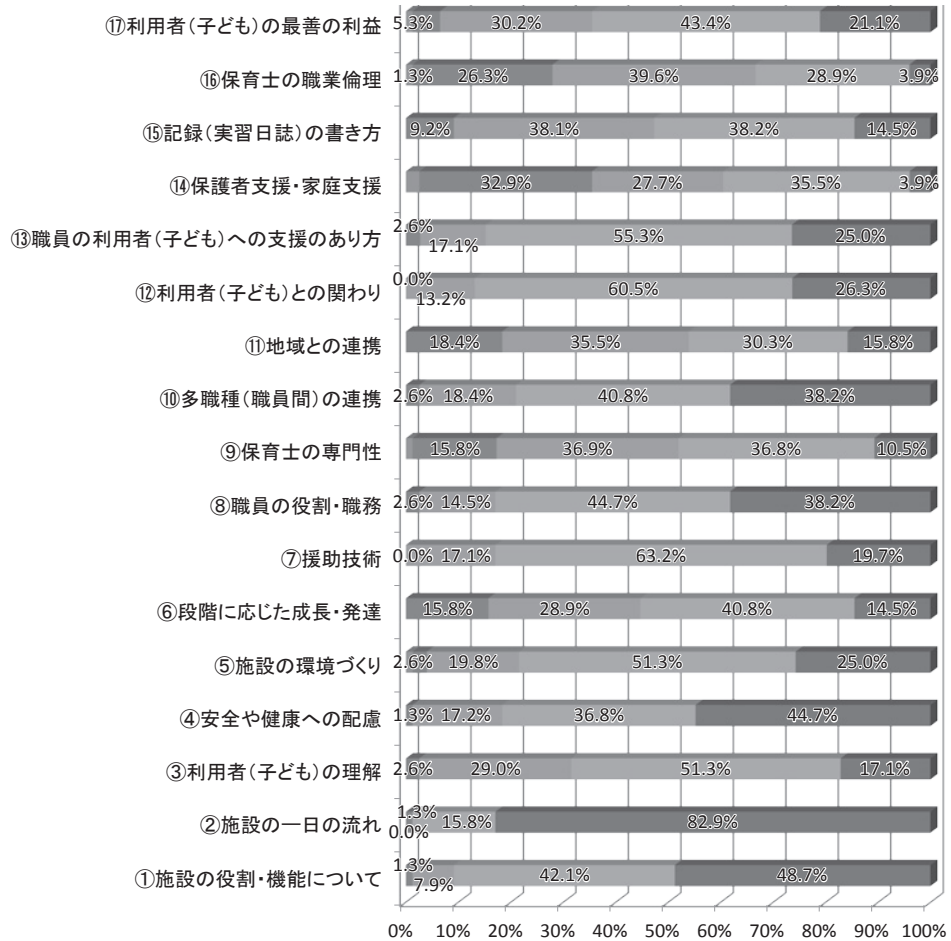
⑭ 保護者支援・家族支援

保護者支援・家族支援については、「よくわかった」が3.9%、「まあまあわかった」が35.5%、「普通」が27.7%「あまりわからなかった」が32.9%であった。「わからなかった」学生は、2.6%であった。「あまりわからなかった」と答えた学生は自立支援所以外の全ての施設で実習を行った学生からであった。自立支援所は、地域との連携については、保育士の職業倫理上「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると39.43%であり、約4割の学生しか保護者支

援・家族支援について、理解できなかったことが明らかになった。

⑮ 記録（実習日誌）の書き方

記録（実習日誌）の書き方については、「よくわかった」が14.5%、「まあまあわかった」が38.2%、「普通」が38.1%であった。「あまりわからなかった」は、9.2%であった。「あまりわからなかった」は、乳児院と障害児施設以外の実習先の学生であった。「まあまあわかった」



■①わからなかった ■②あまりわからなかった ■③普通 ■④まあまあわかった ■⑤よくわかった

(出所) アンケートより筆者作成。

図表 2

と「よくわかった」を含めると 52.7%であり、約 5 割の学生が記録の書き方について、理解したといえる。

⑩ 保育士の職業倫理

保育士の倫理規定については、「よくわかった」が 3.9%、「まあまあわかった」が 28.9%、「普通」が 39.6%であった。「あまりわからなかった」は、26.3%、「わからなかった」が 1.3%であった。「あまりわからなかった」「わからなかった」は全て施設種の学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると 52.7%であり、約 5 割の学生が保育士職業倫理について、理解したといえる。

⑪ 利用者（子ども）の最善の利益

利用者（子ども）の最善の利益については、「よくわかった」が 21.1%、「まあまあわかった」が 43.4%、「普通」が 30.2%であった。「あまりわからなかった」は、5.3%、「わからなかった」が 1.3%であった。「あまりわからなかった」「わからなかった」は児童養護施設・自立支援所・知的障害者施設の学生であった。「まあまあわかった」と「よくわかった」を含めると 64.5%であり、約 6 割の学生が利用者の最善の利益について、理解したといえる。

(2) 施設別の結果

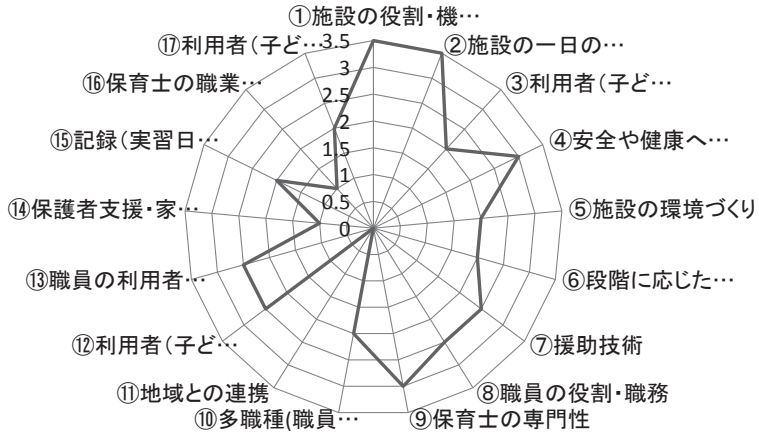
次に施設別の結果を「よくわかった」とし、「まあまあわかった」を 0.5、「ふつう」を 0、「あまりわからなかった」を -0.5、「わからなかった」を -1 とし、指標化し特徴を見てみると下記の結果となった。

① 乳児院（図表 3 参照）

乳児院については、施設の役割機能と施設の一日の流れについては、実習を通して理解できたという高い理解度であった。安全や健康への配慮、保育士の専門性、利用者（子ども）の理解については、おおそ理解できたとのことであった。しかし、地域との連携については、理解度が低く、乳児院では、地域との連携よりも乳児院の中での保育士の援助・技術や支援専門性・子ども理解を知る機会となった結果となった。

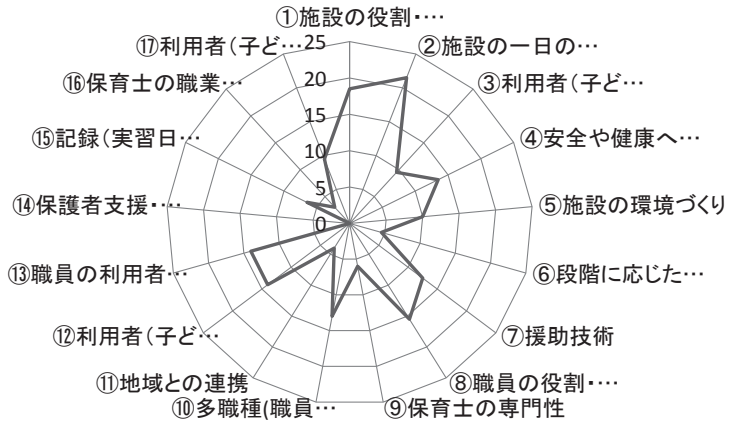
② 児童養護施設（図表 4 参照）

児童養護施設については、乳児院と似た形のレーダーとなった。児童養護施設ということもあり、保護者支援・家族支援については「わからなかった」という学生が大半であり、児童養護施設では、保護者・家庭支援までは実習生が関わる事が出来ないことが明らかとなった。特に段階に応じた成長・発達については、数値が低く、18 歳までの子どもに対する学生の発達の知識やその他、子ども達のおかれている環境や態度に対して実習生がどのように関わるべ



(出所) アンケートより筆者作成。

図表3 乳児院

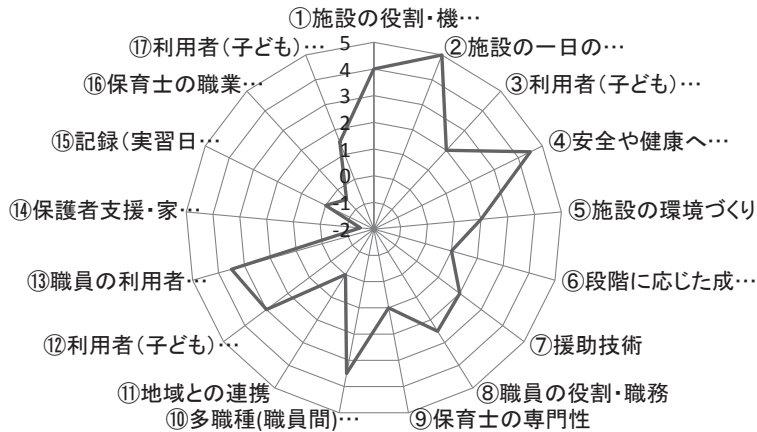


(出所) アンケートより筆者作成。

図表4 児童養護施設

きか戸惑っていた様子が窺える。したがって利用者（子ども）理解についてもあまり高い理解度ではなかった。今後の課題としては、児童養護施設の子どもの理解に繋がる事例の積み重ねが求められる。

施設実習における学びの現状と課題



(出所) アンケートより筆者作成。

図表5 障害児施設

③ 障害児施設 (図表5参照)

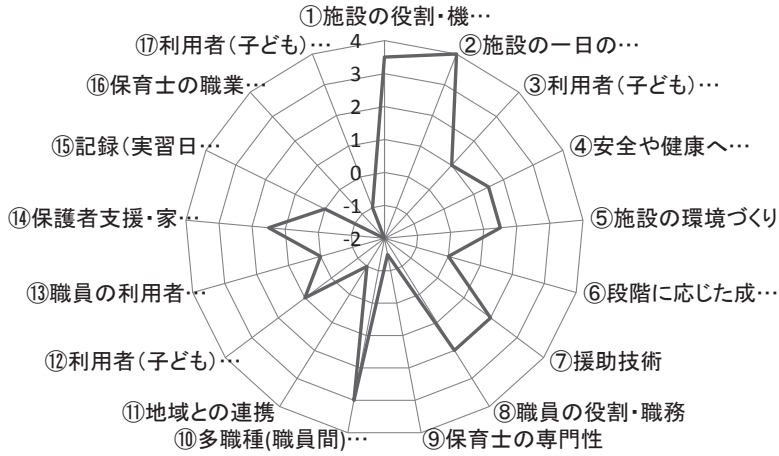
障害児施設では、施設の一日の流れと安全や健康についての配慮の理解度が高い結果となった。施設での安全や健康への配慮を職員の指示の元理解することが出来たと推測される。また多職種（職員間）の連携についても理解度が高く、障害児施設の運営には、他職種との連携が重要であることも実習を通して理解できたといえる。しかし、保育士の職業倫理についての理解度が低い。このことは、実習での生活の流れや日々の事項が、保育士の職業倫理にまで繋がっていないことを意味するため、今後事前の学習と実習の内容が繋がるように事例研究を積み重ねることが求められる。

④ 自立支援事務所 (図表6参照)

自立支援事業所では、施設の役割・機能、実習の一日の流れについての理解度が高い。また他職種（職員間）の連携については、他の施設よりも理解度が高く、自立支援事業所が多くの専門職で利用者を支援する施設であることが象徴されており、その学びが実習生の学びに直結している結果となった。しかし、保育士の職業倫理が低く、多職種との連携は学習ができたが、保育士の専門性や職業倫理についての理解度が低い結果となった。保育士が利用者支援をする職務にあることを深める事前学習や事例研究の積み重ねが求められる。

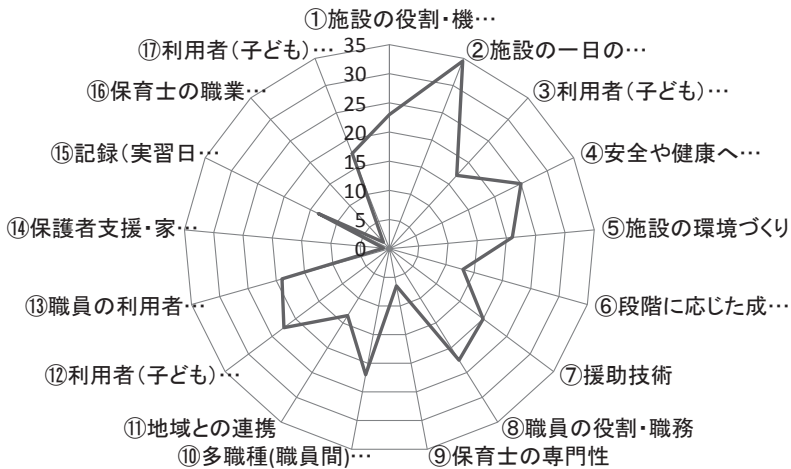
⑤ 知的障害者施設 (図表7参照)

知的障害者施設については、施設の一日の流れの理解度がもっとも高く、次いで安全や健康への配慮、職員の役割・職務、利用者（子ども）理解についての理解度が高い結果となった。



(出所) アンケートより筆者作成。

図表6 自立支援事業所



(出所) アンケートより筆者作成。

図表7 知的障害者施設

段階に応じた成長・発達についても理解度が低く、障害や利用者さんの特性についての学びを深めることが求められる。知的障害者施設の実習では、実習生が保護者支援までは実際に関わることは難しいので、そこまで学ぶことが出来なかった結果となった。

4. まとめ

施設実習での学びは、施設の機能・役割、施設の一日の流れ、利用者（子ども）の理解、安全や健康への配慮、援助技術、職員の役割・職務、多職種の連携、利用者とのかかわり、職員の利用者への支援のあり方、利用者の最善の利益については、理解度が高い結果となった。しかし、地域との連携、保護者支援・家族支援、保育士の職業倫理についての理解度が低いことがわかった。理解度が高いものについては、施設で実際に観察し、自分が関わることにより、理解度が深まるものが多いことが明らかとなった。一方で理解度の低いものについては、課題を残す形となった。段階に応じた成長・発達では、事前の学習と事例研究の積み重ねが必要である。保護者支援・家族支援については、実習生は実際に関わるができない分野ではあるが、実習指導者から話を聞く、もしくは利用者（子ども）の様子から、保護者支援・家族支援をイメージできるようにする学びの質の高さが求められる。さらに、保育士の職業倫理については、事前学習をさらに深め施設での実際の関わりの中で、保育士の職業倫理に該当するものを自分でみつけることができる力を養うことが保育士養成として求められる。

参考文献

- 伊藤玲奈, 2015, 「施設実習における学び—実習経過にみる反省的思考—」, 『和洋女子大学紀要』, 第 55 集, pp91-97。
- 多田内幸子・重永茂, 2014, 「施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査」, 『久留米信愛女学院短期大学紀要』, 第 37 号, pp69-76。
- 土谷由美子, 2007, 「保育実習Ⅱに関する意識と現状について—学生アンケートを中心に—」, 『中国学園紀要』, 第 6 号, p167-171。